

## 国包郷校

姫路市史 第4巻 (2009年)  
p.706-707 より

天保4年は1833年

姫路市史 第四巻 本編近世2  
姫路市/2009.3

### ■ 第二節 教育と文化の動き 六七六

#### ■ 1 学びの場 六七六

##### ■ I 好古堂

- 姫路好古堂の設立
- 明和・安永期
- 藩士教育の強化策
- 国学寮の併設
- 斎藤守澄
- 儉約令
- 揺れる好古堂
- 森田節齋の来講
- 好古堂の終焉

##### ■ II 林田藩敬業館

- 林田藩敬業館

##### ■ III 仁寿山巒

- 仁寿山巒設立の経緯
- 仁寿山学規
- 来巒した学者たち
- 医学寮の付設
- 終焉

##### ■ IV 郷校

- 申義堂
- 熊川舎
- 国包郷校
- 心学講舎
- 寺子屋

幾し)。  
はその後小野藩領市場村の豪商近藤氏を訪ね、さらに但馬豊岡を経て二カ月余の旅を終えている(『於多満  
講書している。当時七五歳の敬所は淡路の徳島藩家老稲田氏の招きで京都から須本に到り、一五日間稲田氏  
宅で講書し、その後高砂に渡り二日間宿泊してから招きにより国包村まで足を延ばしたものであった。敬所  
国包郷校へは仁寿山巒に出講していた京都の儒者猪飼敬所が天保六年四月二十二日招かれ、郷校で三日間  
を与えた(「姫陽秘鑑」一)。

**国包郷校** 印南郡国包村(現加古川市)に天保四年以前、三谷伊左衛門が中心となり設けた郷校がある。

その設立趣意などについては知られないが、天保四年三谷伊左衛門の奇特の行為を賞して以後毎年米一〇俵  
を下付し、さらに折々仁寿山巒から見廻りを派遣して督励するとし、また当時出精のものに褒美として五俵

## 三谷伊左衛門

姫路藩国包組の大庄屋

【支隊】坂本村追分より細工所村浄土宗安楽寺を歴て吉広村迄測る。  
吉広村より国包村迄測る。

経過日	宿泊日	西暦	宿泊地	宿泊場所	現・市町村名	天測	特記事項
569	文化8年3月 5日	1811年4月 27日	国包村	大庄屋三谷伊左衛 門	兵庫県加古川市		坂本村追分より細工所村浄土宗安 …
570	6日	28日	三木町	形屋五郎兵衛	同 三木市		国包村より太郎太夫村字寺脇追分 …

伊能忠敬 e 資料館 <https://www.inopedia.tokyo/database/diary/survey.php?id=17>

姫路藩の大庄屋組は次ページ参照

## 猪飼敬所

Wikipedia より

宝暦 11 年 3 月 22 日 (1761 年 4 月 26 日) - 弘化 2 年 11 月 10 日 (1845 年 12 月 8 日))  
は、日本の江戸時代後期の折衷学派の儒学者。名は彦博 (よしひろ)、字は文卿、希文。近  
江国出身。

経書や史書など、各種書物に詳しく、大和の儒学者谷三山の質問数十条にも答えたように、  
たいへん博識であった。中でも経書、特に三礼に精通していた[1]。著作に「論孟考文」「管  
子補正」などがある。

「姫路藩の銘家老 河合寸翁」 熊田かよこ (2015年、のじぎく文庫) より  
年表にまとめる

- 文政 13 年 (1830) 播磨を訪れ、好古堂教授の近藤抑斎の家に泊まる。  
その時に、仁寿山校での講義を依頼される。  
天文、暦術、三礼 (周礼・儀礼・礼記) などを十数日講義。  
その後、京都に帰る。
- 天保 2 年 (1831) 3 月 13 日～4 月 8 日、仁寿山校で講義
- 天保 3 年 (1832) 伊勢津藩の藩儒となる。

※ 国包郷校で講義した天保 6 年 (1835) は伊勢津藩の藩儒であったことになる。

組名	期間	組下村々
西条組	寛永8~寛政11(1631~1799)	加古郡 宗佐野 野新 船町 下 上 西条
岡組	寛政11~文政9(1799~1826)	宗佐野 野新 船町 下 上 西条
石守組	文政11~天保14(1828~43)	宗佐野 野新 船町 下 上 西条
岡組	天保14~明治4(1843~71)	宗佐野 野新 船町 下 上 西条
大野組	明暦2~延宝8(1656~80)	加古郡 大野 大野新 中津 河原 水足
中村組	延宝8~宝暦8(1680~1758)	加古郡 大野 大野新 中津 河原 水足
大野組	宝暦8~明治4(1758~1871)	加古郡 大野 大野新 中津 河原 水足
寺家町組	寛永末~明治4(1640~1871) 年代後半	加古郡 溝口 間方 平野 寺家町 篠原
高砂組	明暦2~天保9(1656~1838)	加古郡 北在家 植田 備後 別府 新野辺
新野辺組	天保9~明治4(1838~71)	加古郡 北在家 植田 備後 別府 新野辺
古宮組	明暦元~万延元(1655~1860)	加古郡 山上 二俣 一色 中野 八反田
野添組	万延元~文久3(1860~63)	加古郡 山上 二俣 一色 中野 八反田
古宮組	明治元(1868)	加古郡 山上 二俣 一色 中野 八反田
神木組		印南郡 国包 井ノ口 白沢新 寺谷新
都染組	寛永19~天明2(1642~1782)	印南郡 国包 井ノ口 白沢新 寺谷新
国包組	天明2~明治元(1782~1868)	印南郡 国包 井ノ口 白沢新 寺谷新
陰山組	明治2~3(1869~70)	印南郡 国包 井ノ口 白沢新 寺谷新
国包組	明治4(1871)	印南郡 国包 井ノ口 白沢新 寺谷新
畑村組	万治2~延宝9(1659~81)	印南郡 神吉 宮前 宮前新 西 下 富木 清
神吉組	寛文中~明治4(1661~1871)	印南郡 神吉 宮前 宮前新 西 下 富木 清
米田組	慶安4~延宝9(1651~81)	印南郡(加古川左岸) 加古川 船頭 木 友沢 稲屋
加古川組	宝永4~(1707~)	印南郡(加古川左岸) 加古川 船頭 木 友沢 稲屋
米田組	正徳5~享保12(1715~27)	印南郡(加古川左岸) 加古川 船頭 木 友沢 稲屋
加古川組	享保19~20(1734~35)	印南郡(加古川左岸) 加古川 船頭 木 友沢 稲屋
砂部組	元文2~宝暦7(1737~57)	印南郡(加古川右岸) 升田 升田新 砂部 井ノ口 井ノ口
加古川組	天明7~寛政7(1787~95)	印南郡(加古川右岸) 升田 升田新 砂部 井ノ口 井ノ口
砂部組		印南郡(加古川右岸) 升田 升田新 砂部 井ノ口 井ノ口

姫路藩領の大庄屋組